

# 月経のこと身近に感じて

## 近大付属小 実験交え男女合同授業



ナプキンに水を垂らし、吸収性能を学ぶ児童たち  
—奈良市あやめ池北1の近大付属小で（画像の一部を加工しています）

**奈良** 奈良市あやめ池北1の近畿大付属小学校で23日、月経を学ぶ男女合同の特別授業があった。生理中に着用する

説。生理が身近になり始める4年生を対象に約100人が学んだ。同社はCSR（企業の社会的責任）活動の一環で2018年から県内の小学校を中心に出張授業を実施している。月経の正しい知識などを紹介し、男女関係なく身近に感じてもらおうのが狙い。同小では21年に初めて実施し、通算4回目となる。

タカギの社員5人が月経の仕組みや経血量、生理用品の使い方などを解説した後、児童らは「友達のズボンに血が付いていることに気づいた時の対応」などについてグループで話し合った。実験ではナプキンとティッシュに水を垂らして吸収具合を比較し、ナプキンの吸収性能が高いことを学んだ。

授業を受けた安永聡佑さんと高木優さんは「生理用品の役割が大きいことが理解できた」と感想。担任の東村憲教諭（30）は「男性では話にくい内容なので（出張授業は）助かる面が大きい。男子児童の良い学びの機会にもなる」と話していた。

【山口起儀】

サニタリーショーツを製造するタカギ（橿原市）の担当者が教壇に立ち、月経の仕組みや生理用品の性能について実験も交えて解